



学校だより  
ながや

令和5年 7月19日  
横浜市立永谷小学校  
校長 神田 敏之

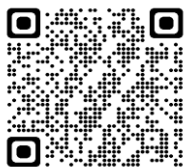
「今日はプールありますか」

校長 神田 敏之

登校してきた子どもが私に尋ねてきます。心の中で「いつでもプールはあります!」と突っ込みを入れながら、「今日は気温も高いからできそうですよ」と答えます。特別な水泳学習でがんばりたいという子どもたちの気持ちがよくわかります。今年度は、水上監視や子どもたちの誘導としてボランティアの協力を得ました。暑い中のお手伝いに感謝するとともに、安全に配慮する目が多いことで、指導者にもゆとりが生まれました。今後もぜひお願いしたいと思います。

夏休みの課題の見直しを行いました。下の学年では、学習の習慣をつけるという考えで、上の学年では一律に行うものと、選んで行うものと目的によって変えています。横浜市では、3学期制を前期と後期の2学期制に変更した時の目的の一つとして、夏休み中に学習の継続を図ることがあります。7月までの学習でうまくいかなかったことを夏休み中にできるようになったときには、9月にその評価を加味して前期の評価に記載するという事です。また、7月までの学習がうまくいった子どもには、発展的な学習に挑戦させるということもできます。そのような観点で、上の学年では担任との相談のうえ、自分で課題を選択して実行をするというように指導をしています。冒頭のプールの話のように自分から意欲的に取り組む姿がその子どもの力を伸ばすことにつながります。

この根底には、学校目標にもつながる自分で考え、選択し、実行するという力を子どもに付けたいという思いがあります。10年先、20年先が見通せない時代に、「おこられないように大人の言うことに従っていればよい」という考えでは将来を生き抜くことができません。これまでも各学級で発達段階に応じて、「自分で考え、決めて行動する」ということを子どもに考えさせてきました。まずはこの夏休みにどれだけ自分の力を発揮できるかが楽しみです。しかしお子さんの状態によってはまだまだ大人のサポートが必要な場合もあります。「早くしなさい」「なんでやらないの」などという子どものやる気をそぐ言葉は封印して、「どのようにしたいの」「困ったら声をかけてね」など子どもの思いや自主性を尊重する声掛けをお願いします。当初の計画通りに進まないことがあるだろうという前提で、計画を修正しながら自分でやり切ったと思えるように家庭でのサポートもお願いします。最終日の朝会でも自分で決める大切さやうまくいかないことを修正してやり直すこと、家の人など周りの方の協力を得ながら進めることなどの話をします。「自分で考え、決めて行動する」ということをやりきったと満足できる夏休みになることを願っています。



今年度は子どもたちの様子についてホームページも活用してお知らせします。  
月1回程度を予定していますので、「学校日記」等のページをご覧ください。